



6月30日(金) 7月1日(土) 2日(日)

FII

ワールド女子プロレス・ディアナ杯 サンケイスポーツ杯争奪戦

戦法多彩な柴田竜!!

「ワールド女子プロレスディアナ杯(FII)」は6月30日から7月2日の3日間開催される。A級注目選手は得点最上位でシリーズリスターの柴田竜史(静岡・96期)。昨年はリズムを崩していたが、前期中盤からは本来の斬(静岡・96期)は追い込み型としてのスタイルを確立しており強力なラインだが、前期2Vと好成績を挙げている今泉薫(群馬・89期)の先行力は侮れない。遠征勢からはS級経験のある戸伏康夫(岡山・96期)や昇り調子の佐藤健太(愛知・101期)と立ち回り巧い選手が揃い混戦。

CRカールズからはリース慣れして勝ち星量産中の長谷部 翔(静岡・109期)や強地脚を持つ奈良 基(宮城・109期)、前回地元戦で完全Vを達成した石井寛子(東京・104期)、奈良(FII)で圧倒的な強さを見せた奥井 迪(東京・106期)が人気の中心。

A級注目選手

柴田 竜史 静岡・96期



昨年は予選を取りこぼすケースもあったが、前期はスピードが戻って3Vと本来の力が戻っている。6月松戸(FI)初日特選は齋藤宗徳(千葉・100期)の番手回り。

赤板から仕掛けた齋藤宗徳を車間を空けて援護。最後は目測を誤って1/4輪届かず2着も、余裕の見える一戦。準決勝では山崎翼(大分・95期)と踏み合って、番手にはまた谷口友真(大阪・109期)がバックから番手捲りを放つ。わずかに届かなかったが、9秒5というまずまずの上りタイムで決勝へと駒を進める。最終日は初日同様、齋藤宗徳と連係。齋藤宗徳の仕上がりがよく、G前逆転Vとはいかななかったものの、きつり成績をまとめて前期最終戦を締め括る。

川崎バンクは5月FIIに出走して特選4着、準決勝3着、決勝1着と好結果を残している。タテ攻撃だけでなく、時にはシビアな位置取りから当所連覇を目指す。

今泉 薫 群馬・89期



決まり手を見ると先行8割、捲り2割という徹底先行。S級戦では思うような成績を挙げることが出来ず辛酸をなめたが、期が変わってからの活躍が目覚ましいものがある。ここ最近で特筆すべきレースは、6月青森ミッドナイト(FII)だろう。初日特選は、正攻法の徳永哲人(熊本・100期)を鐘過ぎ叩いて出るとケンケン加速。番手回りの台和紀(埼玉・83期)をまったく寄せ付けずに逃げ切り好スタート。準決勝は鐘4角から一気に発進すると、落ちていたベース配分で逃げ切り2連勝。無傷で迎えた決勝戦は、番手から主導権を取りに動く、3番手に納まった徳永哲人の捲りを自ら合わせ切り完全Vを達成している。

前期の川崎バンクは1月、3月と2開催出場。いざなり予選からのスタートだが、きつり勝ち上がった決勝進出を決めており相性は悪くないだろう。

相笠 翔太 福島・96期



前回の京王閣(FII)では、今のフォームを練習でも使っていたんですが、結構良いタイムが出ていました。実戦ではどうかなと思いましたが、踏み出しも軽くと伸びも良いですね」と明るい表情で話していた。脚力があるのは勿論の事、自転車車がバッチリ噛み合っている様子だ。

初日特選は柿澤大貴(長野・97期)を押さえると、反撃を狙った田中誇士(静岡・103期)をホールドできちり併せる。強烈なタツシユ力に番手の佐々木健司(青森・76期)が離れてしまっても、それを物ともせず堂々の逃げ切り勝ち。準決勝は山本紳貴(千葉・107期)の先行。4番手キープから中井達郎(静岡・74期)のプロツクを凌いで一気に捲り切る。決勝戦は北日本単騎の苦しい戦い。最終ホムムは9番手、最後は大外を鋭く捲って5着であれば、善戦したと言えるだろう。

前回平塚(FI)は家事都合で欠場しているが、今期初戦の当開催に備え万全の調整で臨む。



URBAN BANK
かわさきケイリン

予想氏名	予選	◎柴田竜史	注西村行貴	×相笠翔太	○戸伏康夫	◎落合達彦	▲渡辺航平	▲今泉薫	▲佐藤健太	▲中村昌弘
(近4ヶ月成績)	府県別	静岡96期	東京92期	福島96期	岡山96期	静岡96期	福井79期	群馬89期	愛知101期	広島81期
級別	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1
1着	8	3	4	5	9	4	1	9	5	3
2着	8	8	2	5	3	6	6	6	5	6
3着	6	2	6	1	4	7	4	6	2	5
着外	10	10	8	9	12	13	10	14	12	10
棄権	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出走数	24	23	29	15	29	29	21	27	30	24
勝率	12.5	21.7	31.0	6.6	13.7	31.0	23.8	11.1	26.6	12.5
連対率	37.5	43.4	51.7	13.3	34.4	41.3	47.6	25.9	53.3	37.5
3連対率	58.3	52.1	72.4	40.0	58.6	55.1	52.3	48.1	60.0	58.3
H数	0	14	14	0	0	0	7	0	2	0
B数	0	0	16	14	0	0	6	1	2	0
競走得点	93.08	90.04	93.86	90.20	93.37	91.65	93.19	92.66	94.86	93.08

デビュー直後、鎖骨骨折の影響でリズムを崩していた時期もあったが、近況は鋭いタツシユ力を武器に勝ち星を量産中。6月静岡(FII)の2日目は内側追い抜きで失格して途中欠場と後味の悪い結果となったが、ホームバンクの伊東(FII)では持ち味を十分に発揮する。



A級CR注目選手 長谷部 翔 静岡・109期

初日予選は赤板でハナに立った同期の樋口瑛士(東京・109期)を、打鐘から一気に叩いて主導権を取り切る。同県黒田直記(静岡・72期)とワンツ1ならずも、きつり人気に応えている。準決勝は2周前から先手を取りに動く、終盤では列棒状のペースに持ち込み、危なげない走り、2連勝。決勝戦は本馬鎌(福島・109期)との先行争いを制すが、番手を回った櫻川雅彦(千葉・99期)が付け切れず単騎逃げの展開に。所要所で脚を使っていたため、4着という結果に終わったが、積極的なレースは好印象。



ガールズ注目選手 石井 寛子 東京・104期

前期は6V、勝率75%、連対率89%、3連対率に至っては96%と抜群の安定感を残している。最終戦のホーム京王閣(FII)では完全Vを達成。初日予選は先行策に出た鈴木奈央(静岡・101期)の3番手キープから、タイミングを見計らって3角捲り追い込み。2日目は加瀬加奈子(新潟・102期)と合せてしまっても、一旦番手に入り直して直線一気の抜け出しを決める。決勝戦は前線に出た鈴木奈央を、鐘過ぎ加瀬加奈子が叩く。正攻法から絶対位を取り切り、鈴木奈央の外を踏み込みV奪取。前団の動きを冷静に判断してからのバック捲りが石井の勝ちパターンといえるだろう。